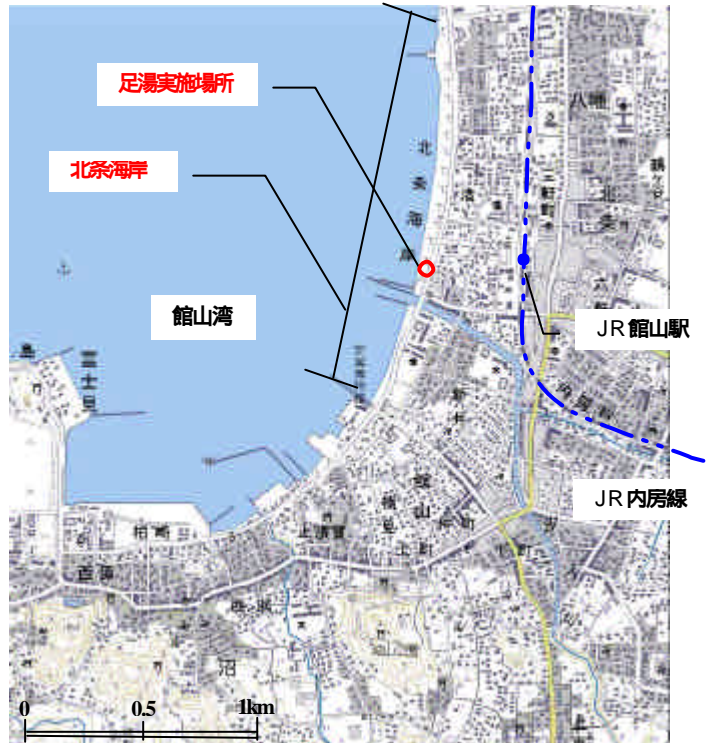
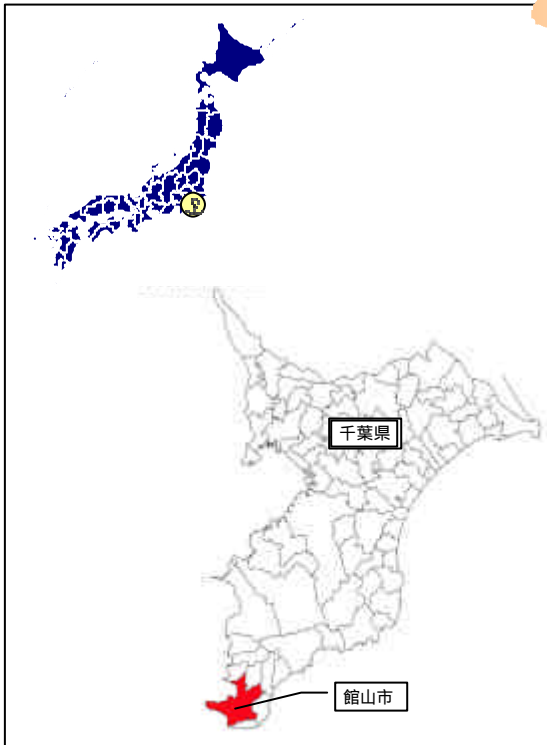


『景観』を活用したみなとまちづくり(館山港)

地域の現状



【館山湾全景】



【海水浴で賑わう館山港海岸(北条海岸)】

館山港(地方港湾)
港湾管理者:千葉県
所在市町村:館山市
人口:51,360人(平成16年6月 住民基本台帳)
観光客数:約130万人(平成15年度 館山市調べ)

豊かな海、自然に囲まれたみなと

館山湾は別名鏡ヶ浦と呼ばれ、静かな海面、良好な水質、市街地に隣接する砂浜の海岸線を有している。

古くは里見藩の城下町であり、南総里見八犬伝の舞台にもなった。

まち(市街地)は、みなとに隣接しているが、近年は人口が減少傾向にある。

南房総館山は観光地としてのポテンシャルは高く年間約130万人の観光客が訪れるが、春の花摘み、イチゴ狩りと夏の海水浴に依存しているのが現状である。

地域の課題

海浜利用の通年化を実現する海辺の交流空間の創出

海とともに発展してきた地域であり、観光地としてポテンシャルは高いが、現在のところ、海浜の利用は夏期の海水浴に限られ、通年の利用がなく、夏期以外は海への関心が低い状況である。

『景観』を活用したみなとまちづくり(館山港)

みなとまちづくりの目標

恵まれた海の自然を活用し、多くの人が日常的に足を運ぶ賑わいのある海浜とみなとを核とした観光産業に結びつけた地域振興

恵まれた自然や景観の地域性を活用し、館山ならではの“人と海辺を結びつける”親水性のある交流空間の創出に取り組み、地域の活性化を目指す。

活用したみなとの資産

市街地と隣接した砂浜(北条海岸)

館山駅から徒歩5分の海辺(砂浜)。遠浅で波が少なく、別名「鏡ヶ浦」と呼ばれるが、夏期以外の利用は少ない。



【夏期以外は利用が少ない砂浜】



【館山湾から見る夕焼けと富士山】

館山湾に沈む美しい夕日と富士山

館山湾に沈む美しい夕日と富士山。日本の夕陽百選に選ばれている。

静穏な館山湾に寄港する多様な船舶

静穏な館山湾には、帆船日本丸や官公庁船、貨物等、多様な船舶が停泊している。

館山市ではホームページで帆船日本丸等の館山湾内での滞在予定を公表している。

館山市ホームページアドレス

<http://www2.city.tateyama.chiba.jp/Guide/?tpcid=45&stoid=462>



【館山湾に停泊している帆船日本丸】

豊かな自然と景観を活かしたみなとまちづくり

取り組み体制

取り組みにあたっては、平成14年から、南房総地域の活性化に貢献し、潤いのあるまちづくりを寄与することを目的に設立された、NPO法人「たてやま・海辺のまちづくり塾」を中心とした地元住民と、行政(館山市、千葉県など)で設置した「館山みなとまちづくり検討協議会」が実施した。

『景観』を活用したみなとまちづくり(館山港)



【自然体験プロジェクト(海辺の生物観察)】



【取り組み場所】



【足湯からの夕陽の景観】



【足湯の内部】

NPO法人「たてやま・海辺のまちづくり塾」(辰野万哉理事長)は、2000年に創設された地元実業家有志による意見交換の会「海辺のまちづくり研究会」がきっかけとなっている。

現在は、みなとまちづくりの取り組みの他、市内小中学校と協働で市内のさくらの植樹活動「さくらプロジェクト」、地元ゆかりの南総里見八犬伝を題材にした商品開発「里見プロジェクト」、館山湾の海ホテルや沿岸のサンゴ等を活用した「自然体験プロジェクト」等を展開している。

館山市では、「自然体験プロジェクト」として平成14年8月、地元の成年8名を対象とした自然体験活動の指導者養成セミナー、都内及び館山市内の児童18名を対象とした海辺の自然体験学習を実施している。

シーサイドセラピー社会実験(里見癒しの足湯)

概要

人々と海とを、「憩い、癒し、健康、楽しみ、誰でも(ユニバーサルデザイン)」をキーワードとする海辺の交流空間づくりを進めるため、市街地に隣接する砂浜を使い、「海を眺めながら入る足湯等」による社会実験を実施した。

実施日：平成15年10月12(日)～19日(日)計8日間
但し、天候不良のため1日中止(実効7日間)
(10:00～18:00, 14～19日は15:00～)

場所：館山港北条海岸

【バリアフリー-アクセス路の設置(仮設)】

車椅子障害者などが自力でそのまま波打ち際までいけるような誘導路(木製スロープ等)を設置し「バリアフリーな砂浜」の試行を行った。

【裸足で歩ける安全な砂浜の創出】

NPOの呼びかけに賛同した市民により、裸足で砂浜を歩けるよう、一定エリアの砂浜を清掃し、漂着物などを除去した。

【足湯の仮設】

館山湾の砂浜上に夕日の景観を活かした足湯を仮設し、砂浜の通年利用のための社会実験を行った。

足湯利用者数：633名(7日間)

施設仮設の際、千葉県に「特別地域内工作物新築許可協議書」及び「公共空地占用許可協議書」を提出し、許可を得ている。

『景観』を活用したみなとまちづくり(館山港)



【砂浜の清掃(写真は足湯設置時のもの)】



【足湯の利用状況】



【バリアフリー利用】



【自然体験活動の推進】

取り組みの成果

みなとのなかでの『憩いの場』の創出の工夫が必要

- 来訪者アンケート(約340人)の結果によると、館山港の海岸に欲しい施設として「足湯のような施設」が約2割を占めており、今回の取り組みについては好評であった。

事業採算性が運営上の課題

- 希望する足湯の利用料金は、約6割が「200円以下」と答えており、足湯だけの独立採算での運営は不可能であることがわかった。
- そのため、今後、継続して取り組んでいくためには、例えば、飲食や物販などの収益性のある事業と組み合わせることを考えていくことが必要であると考えられる。

今後のみなとまちづくりの取り組み

足湯との複合施策の調査・研究

今後、足湯を継続して取り組むための収益事業の検討や事業への協力者の発掘を行っていく。

人と海を近づける取り組みの展開

これまで実施してきた、人と海を近づける取り組みの促進を図るため、アクセスディンギーの普及や自然体験活動の推進などを展開していく。

憩い、癒しの場への貢献

気持ちよい砂浜を維持するための海岸清掃活動を継続的に実施していく。